

地方会議（新潟県十日町市）

1. 日時、場所

平成24年5月29日（火） 14時00分～16時00分
クロステン十日町 2階中ホール

2. 参加者

地元の若手・女性 of 中小企業経営者等 130名

3. 参加者の意見

（1）出された意見数（課題別）

全体意見数	34
資金調達	2
経営指導・経営支援	17
技術力・人材（技能承継等）	4
取引関係（下請取引・流通構造等）	0
販路開拓（海外展開等）	0
若手・青年層の活力発揮	4
女性層の活力発揮	5
「地域」の中の中小・小規模企業（商店街等）	1
その他	1

（2）主な意見

【資金調達】

- ・日本にはまだまだ成長可能な企業が多いと思うので、設備投資、研究開発など、成長投資を後押しするような助成金が必要。

【経営指導・経営支援】

- ・新潟県の製造業は、事業所数が6,100社と全国12位である一方、従業員一人当たりの付加価値という観点では全国35位程度と低く、企業が儲ける仕組みができていない。
- ・新潟県は開業率・廃業率も全国で最下位から3～4番目と低く、新陳代謝が悪い。自らリスクをとって新しいものに挑戦しようという気概がない。
- ・助成金は単年度であり、応募から採択までの期間が短く、利用しにくい。小規模企業にとって、成果を単年度で出すのは難しいので、複数年で使える助成金制度（基金制度等）を検討してほしい。

【技術力・人材（技能承継等）】

- ・先日、雇用調整助成金が縮小される方向という新聞報道があった。この助成金で雇用している従業員もおり、代わりが効かない。
- ・中小企業にとって事業承継は大きな問題。弊社も先代が亡くなってから継承で難儀した。社長は代わりが効かないと痛感した。

【若手・青年層の活力発揮】

- ・創業支援も重要であるが、いくら支援制度を整えてあげても、起業しない人は起業しない。子供の頃から起業家に会う機会を増やすなど、教育の見直しを図るべきではないか。
- ・若者はコミュニケーションが苦手という話もあるが、周りにすぐに頼ろうとせず、まずは自分で出来ることを行っていくことが重要ではないか。

【女性層の活力発揮】

- ・男性は外で働き、女性は家を守るという観念が未だに地方で強く、女性の起業を阻んでいるのではないか。教育の見直し等により、価値観を変える必要がある。
- ・女性の社会進出を応援したいと思っているが、中小企業では産休を取られると代わりがきかないのが現実。採用するのであれば、子育ての終わった世代の女性が望ましい。これが現実ということも理解してほしい。

【「地域」の中の中小・小規模企業（商店街等）】

- ・今までは、商店街がよくなるにはどうしたらよいか、という考えであったが、今は、個店一つひとつがよくならなければ商店街全体も元気にならない、という考えから「十日町個店活性化勉強会（とおかまち逸品会）」を実施している。各個店の店主だけでなく、なるべく従業員にも参加してもらい、商売について語り合ってもらっている。

【その他】

- ・土地を所有していても、農地だと自由に建物が建てられない。ぜひ農水省へ話をしていただき、地元のためになる施設なら、各市町村の裁量で建設の許可を出せるようにしてほしい。